



報道発表

2021年4月30日

メロディ・インターナショナル株式会社への新規投資について

京都大学イノベーションキャピタル株式会社（以下「京都 iCAP」）（本社：京都市左京区、代表取締役：楠美公）を無限責任組合員とするイノベーション京都 2021 投資事業有限責任組合（以下「KYOTO-iCAP2 号ファンド」）は、香川大学発ベンチャー企業のメロディ・インターナショナル株式会社（以下、メロディ社）（本社：香川県高松市、代表取締役：尾形優子）に対する新規投資を実行いたしました。

○今回の投資の概要

メロディ社は周産期医療の胎児モニタリングで利用されるモバイル型の分娩監視装置を開発する香川大学発ベンチャーです。

分娩監視装置は超音波ドップラ技術により胎児心拍を測定し、妊婦健診や分娩監視で利用される装置です。しかし既存製品は装置が大きくて据置型であるため、測定できる場所が限られます。そこでメロディ社はいつでも・どこでも遠隔で胎児モニタリングできるように小型・IoT化したモバイル型装置を開発し、2019年に医療機器として発売しました。

日本では産科施設の減少が進み、定期健診等の通院が妊婦にとって負担となっています。また高齢出産の増加により出産のハイリスク化も進んでいます。新興国・発展途上国では専門医不足と超長距離搬送による高い母子死亡率が課題です。更に最近では新型コロナウイルス感染が世界的に大流行しており、妊婦の感染対策が求められています。これらの課題に対して周産期における遠隔医療が解決策の一つであり、メロディ社の製品が安心安全な出産の実現に役立つことを期待しています。

京都 iCAP はメロディ社の分娩監視装置 iCTG 及び周産期遠隔医療プラットフォーム Melody i の将来性を高く評価し、第三者割当増資による 1 億 5 千万円の新規投資を実行しました。なお、本件投資は京都大学以外の国立大学発ベンチャーも支援可能となった KYOTO-iCAP 2 号ファンドによる、京都大学以外の国立大学発ベンチャー企業への初めての投資案件です。

メロディ・インターナショナル株式会社 概要

設立 2015年7月
事業内容 遠隔医療サービスにかかるプラットフォームと医療機器の製造、開発、販売
本社所在地 香川県高松市
代表取締役 尾形 優子（おがた ゆうこ）



○京都大学イノベーションキャピタル株式会社（京都 iCAP）について

京都 iCAP は、京都大学 100%出資子会社として、京都大学を中心とした国立大学から生まれた研究成果を活用する企業を対象に投資やその他の事業支援を行っております。当社は現在、総額 160 億円のイノベーション京都 2016 投資事業有限責任組合（以下「KYOTO-iCAP1 号ファンド」）（2016 年 1 月設立）と総額 180 億円の KYOTO-iCAP2 号ファンド（2021 年 1 月設立）を運営しています。KYOTO-iCAP 1 号ファンドの満期は最長 20 年、KYOTO-iCAP 2 号ファンドの満期は最長 17 年に設定しており、基礎研究に強みを持つ京都大学の研究成果の実用化を長期にわたって支援することが可能となっています。また、KYOTO-iCAP 2 号ファンドでは、一部資金を京都大学以外の国立大学発ベンチャーに投資することとしています。

【お問い合わせ先】

京都大学イノベーションキャピタル株式会社
〒606-8317 京都市左京区吉田本町 36 番地 1
事業企画部長（広報担当） 河野修己
TEL : 075-753-7588 FAX : 075-753-7592
E-mail : info@kyoto-unicap.co.jp